

環境に心くばりをする緑地管理をめざして  
[三商IPMシステム]



未来へつなぐ、自然への想い

株式会社 三商

# Integrated Pest Management

(包括的雑草病害虫管理)  
～21世紀の緑地管理マネージメント～

## History [IPMの歴史]

約80年前の1923年に、アメリカ農務省の昆虫学者、ハンターとコードの二人が、綿花の販売利益を上回る、ワタコクゾウ虫防除用の農薬代に苦しめられていた南部の生産農家向けに編み出した対策が、IPM (Integrated Pest Management — 包括的雑草病害虫管理) の起源で、下記の5つの対策で成り立っていました。

1. 抵抗性品種の採用
2. 作物残渣の完全処理
3. 経済的境界線を設定し、虫害がこれ以下の時は防除しない
4. 専門家による現地の調査
5. 境界線を越えた時のみ、適期を選び、慎重に選ばれた農薬を散布

これを実践した綿花生産農家は、農薬使用量の削減に成功し、以後IPMは農薬削減の有効な対策として脚光を浴びることとなりました。

ところが、1970年代から次々と優れた効果を持った農薬が登場して、農業・緑地管理事業ともに農薬使用の全盛期を迎え、IPMへの関心が薄れてしまいました。しかし、1980年代から特にアメリカで農薬の多用による環境への悪影響、有益動物へのマイナスの副作用の懸念、健康不安等が高まり、また多用の結果から害虫の農薬に対する抵抗性も見られるようになつたことから、IPMが改めて見直されることとなつたのです。

こうした状況下で、まずアメリカでりんご園・綿花栽培・ゴルフ場及びその他の緑地管理で本格的にIPMが採用されるようになり、今ではカナダ・ヨーロッパ・各国・マレーシア等の一部東南アジアで広く使われるようになっていきます。



## [日本のパイオニア] Pioneer

環境保護の意識が高まっている中で、世界的に注目を浴びているIPM。しかし、日本では極めて歴史が浅く、果樹園等の一部で採用されているだけで、モットーとして掲げている所はあっても、緑地管理の分野では、本格的に採用されたことはありませんでした。

三商は1999年9月に、既に20年にわたってIPMを全面的に採り入れ実践している、アメリカ・オレゴン州ユージン市の公共事業局との関係を樹立し、社長以下役員を送ってIPMの講義を受け、さらに実地を見学するなどIPMの正しい理解に着手。また翌2000年にも社員

を送って勉強を続け、2001年度よりIPMを取り入れた緑地管理を、当社の緑地管理事業の中心に据えることを決定し、日本におけるIPMのパイオニアとして本格的な普及活動を始めます。



公園管理部前で



現地での研修場面

# Sansho IPM System

【三商IPMシステムとは】

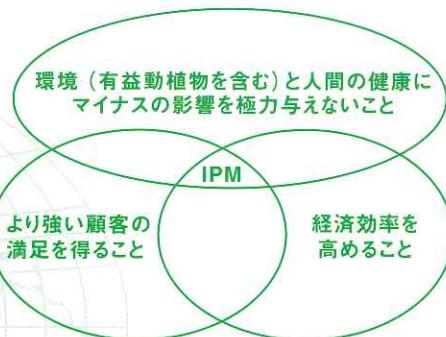
## IPMの定義

米国環境保護庁（EPA）の定義に見られるIPMの基本的な取り組み方を実践していきます。

“IPMでは、環境に対してマイナスの影響を最小限にし、最良の結果を得るために、生物的・栽培的及び科学的方法を含む、広汎な雑草病害虫防除戦略を注意深く管理しながら使用していく。”（米国環境保護庁／1993年制定）

## 基本的な目標

IPMへの取り組みについては、次の3つの目標を掲げています。



## 緑地管理の手法

基本的な目標を達成するために、三商IPMシステムによる緑地管理は次の手法を実践します。

- ◎対象(芝・花卉・樹木等)を注意深く調査し、雑草病害虫に対する被害の有無を極力正確に把握し、被害の拡がりを予測する。
- ◎顧客との合意の上で、許容境界線をあらかじめ設定し、被害が境界線を越えると判断された時に、生物剤及び農薬による防除、あるいは適切な栽培管理(栽培方法・施肥・灌水・土壤管理・抵抗品種の採用・及び耕種的管理等を含む)を顧客と協議の上設定する。
- ◎IPMの目的に合った新しい器具・装置を導入し、使用していく。

## 防除実施の基本原則

次に掲げる4項目の必要とする理由がある時にのみ防除を行い、環境・人間の健康に対するマイナスの影響を最小限にとどめ、経費を有効に活用します。

- ◎公共の安全性と健康に役立つ時
- ◎回避不能の損害・被害の可能性がある時
- ◎機能が損なわれてしまう時
- ◎今までの投資が無駄になってしまう時

## 【三商IPMシステムがもたらす利点】

# Merit

### ●環境に配慮した安全な防除

自然と環境への関心が高まる中で、地域住民が安全で安心できる防除を行うことができます。

### ●農薬使用を最小限に

厳しい農薬使用規制の中でも、必要な場合にのみ農薬を使用することで、防除目的を達成できます。

### ●防除費を有効に活用

境界線を設定する事により、従来の防除費を有効かつ効率的に使用して行く事ができます。

### ●長期的で安定した防除対策を実現

従来の防除体系にこだわらず、長期的に安定したプログラムを作成する事により、将来の展望を含めた防除管理が可能と成ります。

環境の世紀と言われる21世紀。三商が日本で初めて導入した正統的なIPMシステムは、環境を保護しながら計画的に雑草病害虫防除を行うという理想的な緑地管理システムであり、三商はその普及に全力を投入して参ります。

## Sansho Co., Ltd. - A True IPM Pioneer

In American History, pioneers are noteworthy individuals. They are the courageous people who go first into unknown territory and prepare the way for others to follow. Opportunity awaits these people who go first, but also hard work and the mastery of new situations and ideas. Sansho Co., Ltd. has become such a pioneer by deciding to use integrated pest management (IPM) in their operations throughout Japan.

The agricultural model of IPM was developed in 1923, to protect cotton from the boll weevil in the southern United States. It was not seriously applied to landscape and grounds maintenance until the late 1970's and early 1980's, when a few pioneers had the vision to try. While we were not the first to do it, the City of Eugene, Oregon was one of these early pioneers. We began to use IPM in our parks maintenance program in 1980. Our success was appreciated in the community and elsewhere. Over the next two decades we were recognized as a leader in the practical application of IPM. Others contacted us to learn how to do as we had done.

In September of 1999, three new pioneers from Sansho Co., Ltd. in Japan came to Eugene to learn about IPM and how to use it in a comprehensive grounds maintenance program. Kunio Shiihara, now Chairman and CEO of Sansho Co., Ltd, Naohisa Ohtsuki, now Company President, and Hirota Masuda, Advisor and Interpreter, spent a week in Eugene. They were eager to learn, listening attentively to lectures, taking extensive notes, and following up with field tours with all of our crews using IPM. They also visited nearby Oregon State University to discuss IPM methods with the professors there. More Sansho Co. employees came the following year.

Now I have heard that Sansho Co. will launch the Sansho IPM System throughout Japan. They have become true IPM pioneers. As one who has had that experience, I know that challenges await them. But, I have met the men who will lead SanshoCo. in this effort. I know that they will meet these challenges effectively. Sansho Co. will be a successful pioneer and others will follow in their footsteps.



Tim Rhay, M. A.  
Parks Maintenance Manager  
City of Eugene, Oregon  
USA



## 株式会社三商 ——正真正銘のIPMのパイオニア

アメリカの歴史では、パイオニアとは注すべき個人のことを意味します。未開地に最初に足を踏み入れる勇気ある人達で、他の人達が後から踏み入れる為の道を切り開きます。最初に行動する人達には機会が待ち受けいますが、大変な仕事であり新しい状況や考方をマスターしなければなりません。株式会社三商は、日本国内で行っている仕事に包括的雑草病害虫管理(IPM)を取り入れることを決めた、まさに上記のようなパイオニアになりました。

農業をモデルとしたIPMは、1923年に開発され、それはアメリカの南部で発生したコクゾウムシから綿花を守る為のものでした。IPMは、1970年代後半そして1980年代前半では、景観地やグランドの維持管理に真剣に取り入れられることはありませんでした。しかし、当時は数人のパイオニア達がIPMの使用にビジョンを持っていました。私達がIPMを使用した最初の人間ではありませんが、オレゴン州のユージン市は初期のパイオニア達の一人です。私達は、1980年に公園の管理プログラムにIPMを取り入れました。私達の成功は地域住民や他の住民から評価されました。それ以降の20年間、私達はIPMの実際的な導入でのリーダーであるとの認識を受けてきました。他の人達から、私達が成し遂げたことを如何にして行えばよいのか学びたいとの連絡を頂くようになりました。

1999年9月、日本のパイオニア達がIPMと総合的なグランド管理プログラムに如何にIPMを使用するのかを学ぶ為にユージン市を訪れました。株式会社三商の新しい会長でありCEOでもある椎原國男氏、新しく社長に就任された大月直壽氏、顧問で通訳をして頂いた増田廣太氏がユージン市に一週間滞在しました。彼らは学ぶ意欲が強く、講義を熱心に聞き、膨大な量のノートを取り、我々現場作業を行っている全員が使用しているIPMの野外研修を受けました。彼らは、また近くにあるオレゴン州立大学を訪問し教授陣とIPMの手法につき討議を行いました。翌年には、株式会社三商の中堅社員2名がユージン市でIPMの実地研修を受けました。

私は、株式会社三商が日本で三商IPMシステムを推進するということを聞きました。彼らは、正真正銘のIPMのパイオニアとなったのです。私は経験者の一人として、挑戦が彼らを待ち受けていることを知っています。私は株式会社三商が奮闘して行く為の舵取りをする人達とお会い出来ました。彼らが、挑戦に旨く対処して行くことを私は知っています。株式会社三商は、パイオニアとして成功し他の方が三商が付けた踏み跡に続いて来ることでしょう。

ティム・レイ  
公園管理マネージャー  
ユージン市、オレゴン州  
アメリカ合衆国

(※当社ではCEO方式を取っておりません。)

株式会社 三商